

第8章 今後の課題と対応方針案

本章では、過年度業務及び本年後業務によって得られた知見を基に、再生可能エネルギーの導入ポテンシャルやゾーニング基礎情報等に関する今後の課題と対応方針案について取りまとめている。

(1) WebGIS を利用した情報提供サイトの試作と有効性の検証

環境省が運用している環境アセスメントデータベースに搭載されている WebGIS 機能や情報検索機能を活用して情報発信を行うことを前提として、必要要件の整理、追加機能の試作、本格運用に向けた課題の整理を行った。試作したシステムについて検証を行った結果、わかりやすいといった意見も多かった半面、ユーザーならではの潜在的なニーズや操作上の課題が多くあることがわかった。次年度以降はそれら課題への対応を図り基本方針に従じたわかりやすかつ使いやすいシステムに改善していくことが求められる。

(2) 再生可能エネルギー普及促進に向けた情報発信の在り方の検討

再生可能エネルギー普及促進のため、諸外国の例を参考に、最適な情報発信の手法を含めて検討した。また、整備する「WebGIS を利用した情報提供サイト」との連携を視野に入れると同時に、既存情報発信サイトとの連携について検討を行った。次年度以降の情報提供サイトのコンテンツ充実にあたっては関連部署・機関等との連携を図り、サイト利用者目線に立った開発を進めることが望まれる。

(3) 中小水力発電に係るポテンシャル分析ツールの精緻化

過年度作成したツールの改善及びツールの妥当性検証を実施した。検証の結果、データによっては 20～30%程度の乖離があることがわかった。原因としては、今回開発したツールが約 1,000kW 規模を対象としていること、個別事業特有の仕様を考慮できないことなどが挙げられる。今後は必要に応じて様々な規模に対応できること、個別事業特有の仕様を反映できるようにすることが求められる。

(4) 熱需要マップ作成に向けた基礎検討

地域での熱供給事業の事業化検討・再生可能エネルギー熱の導入ポテンシャル推計精緻化作業の基礎データとして、地域や建物毎の熱需要を可視化した、「熱需要マップ」の整備・公表に向けた基礎検討を行った。検討の結果、精度の高い熱需要マップが作成できる可能性が見出せたが、作成にあたっては費用的な課題があることがわかった。今後熱需要マップの作成にあたっては、作成対象範囲を熱利用有望得エリアに限定する、別途安価に作成する方法を構築する等の対応が必要である。

(5) 再生可能エネルギーの導入実績に係る調査・分析

再生可能エネルギーの導入ポテンシャルと再生可能エネルギーの導入量を比較し、地域の再生可能エネルギーポテンシャルの活用状況を、地図データ等を活用して可視化した資料を作成した。可視化することにより導入ポテンシャルや導入実績が多いエリアが明らかになった。一方で、導入ポテンシャルが多く賦存しながらも導入実績が少ないエリアが多くあることがわかった。今後はそういったエリアでは何故導入が進まないのかを詳細に分析し、ポテンシャルの精度向上や再生可能エネルギーの導入促進に向けた施策検討につなげることが重要と考える。

(了)